だが我々の見解は現在もなほ三十七號の場合と異なるものではないあきらかに全農を資本家地主の手先たる全國勞農大衆黨の農民支配の道具に變質せしめんとする兇暴なる勢力は益々強まつて來てはゐる。だが、それと同時に經濟的危機の進行の上に更に發作に當面して農民の窮乏は深まり鬪爭は激化してゐる。全農各縣聯は到る處で強力な鬪爭を遂行しせゐる。秋田、富山の刑務所襲撃、法廷の占領福佐、東京、山梨の小作爭議、大衆的襲撃、八・一デー、九・六デー等の勇敢なるデモ等々に見られる如く、組合員大衆の革命化は急速に進んでゐる。我々はこの最も重要なる客觀的條件を見逃してはならぬ。全農はファッショ化の策動を強く受てゐると同時に革命化の條件を急速に成熟させてゐるのである。

全農内左翼派は未だこの情勢を正確に把へて確實な戰術を取つてはゐなかつた。ある者は「全農は全体として革命化し得ないから内部に反對派結成が必要だ」と云ひ、ある者は「全体として革命化す